

演題名 内視鏡スコープ修理件数低減への取組み

演者 ○新井孝 洲鎌勝也 運天政秀 仲間直崇

所属機関名 医療法人沖縄徳洲会中部徳洲会病院

【はじめに】当院では内視鏡本数 40 本（上部 29 本・下部 11 本）で、年間検査総数 15297 件（上部 12213 件・下部 2724 件・特殊検査 360 件 2016 年度）を施行しているが、H27 年度で¥5419380、H28 年度で¥8253550 と修理金額の高騰が課題であった。H29 年 4 月より臨床工学技士（以下 CE）が当院内視鏡センターに常駐して以降、メーカー協力の元、修理件数の軽減に取組み一定の改善がみられたため報告する。

【目的】医師・看護師を含めた内視鏡センタースタッフ全員に修理金額高騰とスコープの破損状況を周知することで、スコープ取扱いを改善し、修理件数軽減を図る。

【対象・方法】H28 年度上半期の修理状況をユーザー依頼の修理とメーカー指摘の修理に分けて解析。そのうちスコープ取扱い不備で生じた修理に焦点をあてて、H29 年度上半期に 5 回、解析結果の勉強会及び内視鏡スコープの取扱い講習会を CE とメーカーが協力し、医師・看護師を含めた内視鏡センタースタッフ全員を対象におこなった。指導前（H28 年度上半期）と指導後（H29 年度上半期）における修理件数及び内容を比較検討した。

【結果・考察】ユーザー依頼の修理件数は 11 件（H28 年）から 1 件（H29 年）、メーカー指摘の修理件数も 55 件（H28 年）から 11 件（H29 年）と減少した。特に先端部と湾曲部破損件数の減少が著明であった。勉強会において修理金額・件数をスタッフ全員で共有することで内視鏡スコープ取扱い改善への意識付けをしたうえで、講習会にて改善点を指導したことでスコープ取扱いの意識を高めたことが修理件数軽減につながったと考えられる。これに加え CE が使用前・使用后点検をおこなうようになったことで修理箇所の早期発見が増えたことも相乗効果をもたらしたと考えられる。

【結語】当院においては CE が内視鏡センターに常駐し、勉強・講習会及びスコープ点検を主導することで内視鏡スコープ修理件数軽減につながった可能性が高いと考えられた。なお学会当日は H28 年度・H29 年度下半期の成績を含めた比較検討の結果を御供覧予定である。

【連絡先：〒901-2393 沖縄県中頭郡北中城村アワセ土地区画整理事業地内 2 街区 1 番（泡瀬ゴルフ場跡地） TEL 098-932-1110】